



ホットライン

- [ホットラインの概要 \(1 ページ\)](#)
- [ホットラインのシステム要件 \(2 ページ\)](#)
- [ホットラインの設定タスク フロー \(2 ページ\)](#)
- [ホットラインのトラブルシューティング \(15 ページ\)](#)

ホットラインの概要

ホットライン機能は Private Line Automatic Ringdown (PLAR) 機能を拡張し、ユーザがオフフックしたとき（または NewCall ソフトキーや回線キーが押されたとき）に、すぐに所定の番号をダイヤルするよう電話機を設定できるようにします。電話機ユーザは、PLAR 用に設定された電話機から他の番号をダイヤルすることはできません。ホットラインは、PLAR を使用する電話機に対して、次の新たな制限と管理者コントロールを追加します。

- コールを受信するホットラインデバイス（ホットラインを使用するように設定されたデバイス）は、他のホットラインデバイスからしかコールを受信せず、ホットライン以外の発信者を拒否します。
- ホットライン電話機は、コールのみ、受信のみ、またはコールと受信の両方に設定できません。
- ソフトキーテンプレートを電話機に適用することにより、ホットライン電話機上で使用可能な機能を制限できます。
- アナログ ホットライン電話機は、着信フックフラッシュ信号を無視します。

ルート クラス シグナリング

ホットラインは、ルート クラス シグナリングを使用して、ホットライン電話機が他のホットライン電話機からのコールしか受信できないようにします。ルート クラスは、コールのトラフィックのクラスを識別する DSN コードです。ルート クラスを通して、ルーティングや終端に関する特殊な要件が下流のデバイスに通知されます。ホットライン電話機は、同じルート クラスを持つホットライン電話機からのコールしか受信できません。

通話の発信者名確認

ホットラインは、発信者 ID に基づく、設定可能な通話の発信者名確認も提供します。設定可能な通話の発信者名確認を使用すれば、受信側のホットライン電話機は、発信者 ID 情報に基づいてコールを検査し、スクリーニングリストにある発信者にのみ接続を許可できます。

ホットラインのシステム要件

Unified Communications Manager には、次のホットラインのシステム要件があります。

- クラスタ内の各サーバに Unified Communications Manager 8.0(1) 以降が必要です。
- MGCP ゲートウェイ POTS 電話 (FXS)
- SCCP ゲートウェイ POTS 電話 (FXS)



ヒント Cisco Feature Navigator を使用すると、Cisco IOS および Catalyst OS ソフトウェアイメージがサポートする特定のソフトウェア リリース、フィーチャセット、またはプラットフォームを確認できます。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、<http://cfn.cloudapps.cisco.com/ITDIT/CFN/>に進みます。

Cisco Feature Navigator にアクセスするには Cisco.com アカウントは必要ありません。

ホットラインの設定タスク フロー

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	電話機能一覧の生成	Cisco Unified Reporting にログインし、電話機能リスト レポートを実行して、ホットラインをサポートする電話を決定します。
ステップ 2	カスタム ソフトキー テンプレートの作成 (3 ページ)	これはオプションです。ホットライン電話の機能を制限する場合は、必要な機能だけを許可するソフトキー テンプレートを作成します。
ステップ 3	電話でのホットラインの設定 (4 ページ)	電話をホットライン デバイスとして有効にします。
ステップ 4	ルート クラス シグナリングの設定タスク フロー (4 ページ)	ホットライン機能をサポートするルート クラス シグナリングを設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	発信専用または受信専用のホットラインの設定タスク フロー (9 ページ)	オプションホットライン電話の機能をコールの発信またはコールの受信のみに制限する場合は、発信と受信の設定を行います。
ステップ 6	コーリング サーチ スペースでのコールスクリーニングの設定 (12 ページ)	オプションコーリング サーチ スペースとパーティションを使用して、ホットライン電話のコールスクリーニングリストを設定します。

カスタム ソフトキー テンプレートの作成

ホットラインを設定すると、ホットライン電話で使用可能にする機能だけを表示するソフトキー テンプレートをカスタマイズできます。

Unified Communications Manager には、コール処理およびアプリケーション用の標準ソフトキー テンプレートが組み込まれています。カスタム ソフトキー テンプレートを作成するときは、標準テンプレートをコピーして、必要に応じて変更します。

始める前に

[電話機能一覧の生成](#)

手順

- ステップ 1 [デバイス (Device)]>[デバイスの設定 (Device Settings)]>[ソフトキー テンプレート (Softkey Template)] を選択します。
- ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3 ドロップダウン リストからソフトキー テンプレートを選択し、[コピー (Copy)] をクリックして新しいテンプレートを作成します。
- ステップ 4 [ソフトキー テンプレート名 (Softkey Template Name)] フィールドに、ソフトキー テンプレートを特定する一意の名前を入力します。
- ステップ 5 テンプレートの使用方法を表す説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、山カッコ (<>) は使用できません。
- ステップ 6 このソフトキー テンプレートを標準のソフトキー テンプレートとして指定するには、[デフォルトのソフトキー テンプレート (Default Softkey Template)] チェックボックスをオンにします。

(注) あるソフトキー テンプレートをデフォルトのソフトキー テンプレートとして指定した場合、デフォルトの指定を解除してからでないと、そのソフトキー テンプレートは削除できません。

- ステップ7** [保存 (Save)]をクリックします。
ソフトキーテンプレートがコピーされると、[ソフトキーテンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)]ウィンドウが再表示されます。
- ステップ8** (任意) [アプリケーションの追加 (Add Application)] ボタンをクリックします。
- ステップ9** Cisco Unified IP 電話 の LCD スクリーン上でのソフトキーの位置を設定します。
- ステップ10** 設定を保存するには、[保存 (Save)]をクリックします。
-

電話でのホットラインの設定

電話をホットライン デバイスとして有効にするには、次の手順を使用します。

始める前に

これはオプションです。ホットライン電話に対して使用可能にする機能のみを表示するカスタム ソフトキー テンプレートを作成する場合は、[カスタム ソフトキー テンプレートの作成 \(3 ページ\)](#) を参照してください。

手順

- ステップ1** [Cisco Unified CM Administration] から、以下を選択します。[デバイス (Device)]>[電話 (Phone)]。
- ステップ2** [検索 (Find)]をクリックして、ホットラインデバイスとして有効にする電話を選択します。
- ステップ3** [ホットラインデバイス (Hotline Device)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ4** ホットライン電話専用のカスタムソフトキーテンプレートを作成したら、[ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] ドロップダウン リストからソフトキー テンプレートを選択します。
- ステップ5** [保存 (Save)]をクリックします。
- (注) デバイス プールにソフトキー テンプレートを割り当てて、そのデバイス プールを電話に割り当てることもできます。
-

ルート クラス シグナリングの設定タスク フロー

ホットライン コールのルートクラスシグナリングを設定するには、このタスク フローを実行します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	クラスタでのルートクラスシグナリングの有効化 (5 ページ)	トランクとゲートウェイのルートクラスシグナリングのクラスタ全体のデフォルトを有効に設定します。 (注) 個々のゲートウェイおよびトランクの設定は、クラスタ全体のデフォルト設定を上書きします。このサービスパラメータを使用してクラスタ全体でルートクラスシグナリングを有効にすると、ルートクラスシグナリングは、個々のトランクまたはゲートウェイで無効化できます。
ステップ2	トランクでのルートクラスシグナリングの有効化 (6 ページ)	個々のトランクのルートクラスシグナリングを有効にします。
ステップ3	ゲートウェイでのルートクラスシグナリングの有効化 (7 ページ)	MGCP T1/CAS または MGCP PRI ゲートウェイのルートクラスシグナリングを有効にします。
ステップ4	ホットラインルートクラスのシグナリングラベルの設定 (7 ページ)	ホットラインルートクラスの SIP シグナリングラベルを設定します。
ステップ5	ホットラインルートパターンでのルートクラスの設定 (8 ページ)	ホットラインコールをルーティングするルートパターンのルートクラスを設定します。
ステップ6	ホットライントランスレーションパターンでのルートクラスの設定 (9 ページ)	オプション ホットラインコールでトランスレーションパターンを使用する場合は、トランスレーションパターンのルートクラスを設定します。

クラスタでのルートクラスシグナリングの有効化

[有効なルートクラス トランク シグナリング (Route Class Trunk Signaling Enabled)] サービスパラメータを [True] に設定すると、ルートクラスシグナリングをサポートするクラスタ内の全トランクまたはゲートウェイのデフォルトのルートクラスシグナリングが有効に設定されます。



- (注) 個々のゲートウェイおよびトランクの設定は、クラスタ全体のデフォルト設定を上書きします。このサービスパラメータを使用してクラスタ全体でルートクラスシグナリングを有効にすると、ルートクラスシグナリングは、個々のトランクまたはゲートウェイで無効化できません。

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified CM Administration] から、以下を選択します。[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)]。
- ステップ 2** [有効なルートクラス トランク シグナリング (Route Class Trunk Signaling Enabled)] サービスパラメータを [True] に設定します。
- ステップ 3** [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

個々のトランクまたはゲートウェイでルートクラスシグナリングを設定するには、次の手順を使用します。

[トランクでのルートクラスシグナリングの有効化 \(6 ページ\)](#)

[ゲートウェイでのルートクラスシグナリングの有効化 \(7 ページ\)](#)

トランクでのルートクラスシグナリングの有効化

個々のトランクのルートクラスシグナリングを有効にするには、次の手順を使用します。個々のトランクの設定は、クラスタワイドサービスパラメータ設定を上書きします。

始める前に

[クラスタでのルートクラスシグナリングの有効化 \(5 ページ\)](#) 手順に従って、クラスタワイドサービスパラメータを使用し、クラスタ内の全トランクにデフォルトのルートクラスシグナリング設定を設定します。

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified CM Administration] から、以下を選択します。[デバイス (Device)] > [トランク (Trunks)]。
- ステップ 2** [検索 (Search)] をクリックして、ルートクラスシグナリングを有効にする SIP トランクを選択します。
- ステップ 3** [ルートクラスシグナリングの有効化 (Route Class Signaling Enabled)] ドロップダウンリストボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。

- [デフォルト (Default)] —このトランクは [ルートクラスシグナリングの有効化 (Route Class Signaling Enabled)] サービスパラメータの設定を使用します。
- [オフ (Off)] —このトランクに対して、ルートクラスシグナリングが無効です。
- [オン (ON)] —このトランクに対して、ルートクラスシグナリングが有効です。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

ゲートウェイでのルートクラスシグナリングの有効化

この手順を使用して、個々の MGCP PRI または MGCP T1/CAS ゲートウェイでルートクラスシグナリングを有効にします。個々のゲートウェイの設定は、クラスタ全体のサービスパラメータの設定よりも優先されます。

始める前に

[クラスタでのルートクラスシグナリングの有効化 \(5 ページ\)](#) の手順に従い、クラスタ全体のサービスパラメータを使用して、クラスタ内のゲートウェイのデフォルトルートクラスシグナリング設定を指定します。

[トランクでのルートクラスシグナリングの有効化 \(6 ページ\)](#) の手順を実行して、個々のトランクのルートクラスシグナリングを設定します。

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified CM Administration] から、以下を選択します。[デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateways)]。
- ステップ 2 [検索 (Find)] をクリックし、ルートクラスシグナリングを設定するゲートウェイを選択します。
- ステップ 3 [ルートクラスシグナリングの有効化 (Route Class Signaling Enabled)] ドロップダウンリストボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。
- デフォルト (Default) : このゲートウェイは、クラスタ全体のサービスパラメータの [ルートクラスシグナリングの有効化 (Route Class Signaling Enabled)] を使用します。
 - オフ (Off) : このゲートウェイでルートクラスシグナリングが無効になります。
 - オン (On) : このゲートウェイでルートクラスシグナリングが有効になります。
- ステップ 4 音声コールの音声ルートクラスをエンコードする場合は、[音声ルートクラスのエンコード (Encode Voice Route Class)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

ホットラインルートクラスのシグナリングラベルの設定

使用するホットラインルートクラスの SIP シグナリングラベル値を設定する必要があります。

始める前に

トランクとゲートウェイのルートクラス シグナリングを有効にします。詳細は、[クラスタでのルートクラスシグナリングの有効化 \(5 ページ\)](#) を参照してください。

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified CM Administration] から、以下を選択します。 [システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)]]。
- ステップ 2 [サーバ (Server)] ドロップダウンリストから、CallManager サービスが実行されているサーバを選択します。
- ステップ 3 [サービス (Service)] ドロップダウンリストから、[Cisco CallManager] を選択します。
- ステップ 4 [詳細設定 (Advanced)] をクリックします。
- ステップ 5 [SIP ルートクラス命名機関 (SIP Route Class Naming Authority)] サービスパラメータフィールドに、命名機関を表す値と、SIP シグナリングでルートクラスを表すために使用されるラベルのコンテキストを入力します。デフォルト値は [cisco.com] です。
- ステップ 6 [SIP ホットラインボイスルートクラスラベル (SIP Hotline Voice Route Class Label)] サービスパラメータフィールドに、ホットラインボイスルートクラスを表すラベルを入力します。デフォルト値は [hotline] です。
- ステップ 7 [SIP ホットラインデータルートクラスラベル (SIP Hotline Data Route Class Label)] サービスパラメータフィールドに、ホットラインデータルートクラスを表すラベルを入力します。デフォルト値は [ccdata] です。
- ステップ 8 [保存 (Save)] をクリックします。

ホットラインルートパターンでのルートクラスの設定

この手順では、ホットラインデバイスに特有のコールルーティング手順について説明します。ネットワークのルートパターンおよびトランスレーションパターンの設定方法に関しては、『[『System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager』](#)』を参照してください。

ホットラインコールをルーティングする予定のルートパターンごとに、そのルートパターンのルートクラスを[ホットラインボイス (Hotline Voice)] または[ホットラインデータ (Hotline Data)] に設定する必要があります。

始める前に

[ホットラインルートクラスのシグナリングラベルの設定 \(7 ページ\)](#)

この手順を実行する前に、ルートパターンを使用してネットワークコールルーティングを設定してください。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM Administration] から、以下を選択します。 [コール ルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [ルート パターン (Route Patterns)]
- ステップ 2** [検索 (Find)] をクリックして、ネットワークのルート パターンのリストを表示します。
- ステップ 3** ホットライン コールのルーティングに使用される各 T1/CAS ルート パターンについて、次のように設定します。
- [ルート パターンの検索と一覧表示 (Find and List Route Patterns)] ウィンドウから、ルート パターンを選択します。
 - [ルート クラス (Route Class)] ドロップダウン リスト ボックスから、[ホットライン ボイス (Hotline Voice)] または [ホットライン データ (Hotline Data)] のいずれかをこのルート パターンのルート クラスとして選択します。
 - [保存 (Save)] をクリックします。
-

ホットライン トランスレーション パターンでのルート クラスの設定

始める前に

この手順を実行する前に、ルート パターンとトランスレーション パターンを指定してネットワーク コール ルーティングを設定しておく必要があります。

[ホットライン ルート パターンでのルート クラスの設定 \(8 ページ\)](#) の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM Administration] から、以下を選択します。 [コール ルーティング (Call Routing)] > [トランスレーション パターン (Translation Pattern)]。
- ステップ 2** クラスタのトランスレーション パターンを表示するには、[検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 3** ホットライン番号で使用するトランスレーション パターンごとに、次の手順を実行します。
- [ルート クラス (Route Class)] ドロップダウン リスト ボックスから、[ホットライン ボイス (Hotline Voice)] または [ホットライン データ (Hotline Data)] を選択します。
 - [保存 (Save)] をクリックします。
-

発信専用または受信専用のホットラインの設定タスク フロー

このタスクフローの設定例では、ホットラインの電話を発信専用、または受信専用のどちらかに設定する方法について説明します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	発信専用/受信専用のホットラインのパーティションの設定 (10 ページ)	2つのパーティションを作成します。1つは空で、もう1つは新しいCSSに割り当てます。
ステップ 2	発信専用/受信専用のホットラインのコーリングサーチスペースの設定 (11 ページ)	新しいコーリングサーチスペースを作成し、新しいCSSの1つをこのCSSに割り当てます。このCSSには他のパーティションは含まれません。
ステップ 3	次のいずれかの手順を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • 発信専用ホットライン電話の設定 (11 ページ) • 受信専用ホットライン電話の設定 (12 ページ) 	発信専用を設定する場合、空のパーティションを電話回線に割り当てます。受信専用を設定するには、その電話に新しいCSSを割り当てます。

発信専用/受信専用のホットラインのパーティションの設定

ホットライン電話を発信専用または受信専用を設定する場合、2つのパーティションを作成する必要があります。

手順

-
- ステップ 1 [Cisco Unified CM Administration] から、以下を選択します。 [コール ルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [パーティション (Partition)]。
- ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3 新しいパーティションを作成します。
- ステップ 4 パーティションの一意の名前と説明を入力します。たとえば、IsolatedPartition のように入力します。
- (注) このパーティションを CSS に割り当てることはできません。
- ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 6 手順2から5までを繰り返し、2番目のパーティションを作成します。たとえば、EmptyPartition のように入力します。
- (注) このパーティションは、電話回線に割り当てられず、NoRouteCSS に割り当てられません。
-

発信専用/受信専用のホットラインのコーリングサーチスペースの設定

コーリングサーチを作成し、作成した2つのパーティションのいずれかをコーリングサーチスペースに割り当てる必要があります。

始める前に

[発信専用/受信専用のホットラインのパーティションの設定 \(10 ページ\)](#)

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM Administration] から、以下を選択します。[**コールルーティング (Call Routing)**] > [**コントロールのクラス (Class of Control)**] > [**コーリングサーチスペース (Calling Search Space)**]。

ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。

ステップ 3 コーリングサーチスペースの [名前 (Name)] と [説明 (Description)] を入力します。

ステップ 4 [使用可能なパーティション (Available Partitions)] リストボックスから、矢印を使用して [EmptyPartition] パーティションを選択します。

(注) パーティションがこのコーリングサーチスペースのみに割り当てられ、電話回線に割り当てられていないことを確認します。

ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

次のいずれかの手順を実行します。

- [発信専用ホットライン電話の設定 \(11 ページ\)](#)
- [受信専用ホットライン電話の設定 \(12 ページ\)](#)

発信専用ホットライン電話の設定

パーティションとコーリングサーチスペースを設定した後、ホットライン電話を発信専用設定するには、次の手順を実行します。

始める前に

[発信専用/受信専用のホットラインのコーリングサーチスペースの設定 \(11 ページ\)](#)

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM Administration] から、以下を選択します。[**コールルーティング (Call Routing)**] > [**電話 (Phone)**]。

- ステップ2 [検索 (Find)] をクリックして、ホットライン電話を選択します。
- ステップ3 左側のナビゲーション ウィンドウで、電話回線をクリックします。
[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ4 [ルートパーティション (Route Partition)] ドロップダウンリストから、作成した空のパーティションを選択します。
- ステップ5 [保存 (Save)] をクリックします。
-

受信専用ホットライン電話の設定

コーリング サーチ スペースとパーティションをすでに作成している場合、次の手順を実行して、ホットライン電話機をコールの受信専用を設定します。

始める前に

[発信専用/受信専用のホットラインのコーリング サーチ スペースの設定 \(11 ページ\)](#)

手順

- ステップ1 [Cisco Unified CM Administration] から、以下を選択します。[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)]。
- ステップ2 [検索 (Find)] をクリックして、ホットライン電話機を選択します。
- ステップ3 [コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)] ドロップダウンリストから、前の手順で作成した新しい CSS を選択します。
- ステップ4 [保存 (Save)] をクリックします。
-

コーリング サーチ スペースでのコール スクリーニングの設定

パーティション内にあるホットライン電話だけが互いにコールできるようにする固有の CSS を割り当てて、(回線間で) イントラスイッチされたホットライン コールのコール スクリーニングを設定します。



- (注) それぞれのパターンが許可またはスクリーニングする各番号パターンと一致するトランスレーションパターンを作成して、コール スクリーニングを設定することもできます。
-

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	ホットライン コール発信者名確認のためのパーティションの設定 (13 ページ)	ホットライン電話回線用の新しいパーティションを作成します。
ステップ 2	ホットライン コール発信者名確認のためのコーリング サーチ スペースの作成 (14 ページ)	スクリーニング リストの新しい CSS を作成します。CSS には、許可するホットライン番号だけを含むパーティションを含める必要があります。
ステップ 3	ホットライン電話でのコール発信者名確認の設定 (15 ページ)	新しい CSS とパーティションをホットライン電話に割り当てます。

ホットライン コール発信者名確認のためのパーティションの設定

コーリング サーチ スペースを使用したホットライン電話機のコール発信者名確認を設定するには、発信者名の確認を許可するホットライン番号のみを対象としたパーティションをセットアップする必要があります。

ホットラインコールの発信者確認リストのために新しいパーティションを作成する必要がある場合、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified CM Administration] から、以下を選択します。 [コール ルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [パーティション (Partition)]。
- ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックして新しいパーティションを作成します。
- ステップ 3 [パーティション名、説明 (Partition Name, Description)] フィールドに、ルートプランに固有のパーティション名を入力します。
パーティション名には、英数字とスペースの他にハイフン (-) とアンダースコア (_) を使用できます。パーティション名に関するガイドラインについては、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 4 パーティション名の後にカンマ (,) を入力し、パーティションの説明を同じ行に入力します。
説明には、任意の言語で最大 50 文字を使用できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、山カッコ (<>)、角括弧 ([]) は使用できません。
説明を入力しなかった場合は、Cisco Unified Communications Manager が、このフィールドに自動的にパーティション名を入力します。
- ステップ 5 複数のパーティションを作成するには、各パーティション エントリごとに 1 行を使います。
- ステップ 6 [スケジュール (Time Schedule)] ドロップダウンリストから、このパーティションに関連付けるスケジュールを選択します。

スケジュールでは、パーティションが着信コールの受信に利用可能となる時間を指定します。
[なし (None)] を選択した場合は、パーティションが常にアクティブになります。

ステップ 7 次のオプション ボタンのいずれかを選択して、[タイムゾーン (Time Zone)] を設定します。

- [発信側デバイス (Originating Device)] : このオプション ボタンを選択すると、発信側デバイスのタイムゾーンと [スケジュール (Time Schedule)] が比較され、パーティションが着信コールの受信に使用できるかどうか判断されます。
- [特定のタイムゾーン (Specific Time Zone)] : このオプション ボタンを選択した後、ドロップダウンリストからタイムゾーンを選択します。選択されたタイムゾーンと [スケジュール (Time Schedule)] が比較され、着信コールの受信にパーティションが使用できるかどうか判断されます。

ステップ 8 [保存 (Save)] をクリックします。

ホットラインコール発信者名確認のためのコーリングサーチスペースの作成

次の手順を実行して、通話の発信者名確認リストでホットライン電話用の新しいコーリングサーチスペースを作成します。この CSS 用に選択したパーティション内のホットライン番号のみが、通話の発信者名確認リストで許可するホットライン番号であることを確認します。スクリーニングで除外するホットライン番号がこの CSS のパーティションに含まれないようにします。

始める前に

[ホットラインコール発信者名確認のためのパーティションの設定 \(13 ページ\)](#)

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM Administration] から、以下を選択します。 [コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]

ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。

ステップ 3 [名前 (Name)] フィールドに、名前を入力します。

各コーリングサーチスペース名がシステムに固有の名前であることを確認します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、およびアンダースコア (_) を任意に組み合わせて含めることが可能です。

ステップ 4 [説明 (Description)] フィールドに、説明を入力します

説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、山カッコ (<>) は使用できません。

ステップ 5 [使用可能なパーティション (Available Partitions)] ドロップダウンリストから、次の手順のいずれかを実施します。

- パーティションが1つの場合は、そのパーティションを選択します。
- パーティションが複数ある場合は、コントロール (Ctrl) キーを押したまま、適切なパーティションを選択します。

- ステップ 6** ボックス間にある下矢印を選択し、[選択されたパーティション (Selected Partitions)] フィールドにパーティションを移動させます。
- ステップ 7** (任意) [選択されたパーティション (Selected Partitions)] ボックスの右側にある矢印キーを使用して、選択したパーティションの優先順位を変更します。
- ステップ 8** [保存 (Save)] をクリックします。

ホットライン電話でのコール発信者名確認の設定

ホットラインコールスクリーニング用にコーリング検索スペースおよびパーティションをすでに設定している場合は、この手順を実行してホットライン電話機にコーリング検索スペースおよびパーティションを割り当てます。

始める前に

[ホットライン コール発信者名確認のためのコーリング検索スペースの作成 \(14 ページ\)](#)

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified CM Administration] から、以下を選択します。[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)]。
- ステップ 2** [検索 (Find)] をクリックして、ホットライン電話機を選択します。
- ステップ 3** [コーリング検索スペース (Calling Search Space)] ドロップダウンリストから、ホットラインコールスクリーニングリスト用に作成した新しいコーリング検索スペースを選択します。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 5** 左側のナビゲーション ウィンドウから、ホットライン コールに使用する電話回線をクリックします。
[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 6** [ルートパーティション (Route Partition)] ドロップダウンリストから、設定するコーリング検索スペースに含まれるパーティションを選択します。
- ステップ 7** [保存 (Save)] をクリックします。

ホットラインのトラブルシューティング

次の表に、ホットラインコールが正しくダイヤルされない場合のトラブルシューティング情報を示します。

表 1:ホットラインコールが正しくダイヤルされない場合のトラブルシューティング

問題	ソリューション
ダイヤル トーン	PLAR 設定を確認します。
リオーダー トーンまたは VCA (クラスタ内コール)	<ul style="list-style-type: none"> • PLAR 設定を確認します。 • 両端の電話機がホットライン電話機として設定されていることを確認します。
リオーダー トーンまたは VCA (クラスタ内または TDM コール)	<ul style="list-style-type: none"> • PLAR 設定を確認します。 • 両端の電話機がホットライン電話機として設定されていることを確認します。 • トランクでルートクラスシグナリングがイネーブルになっていることを確認します。 • CAS ゲートウェイのルートクラストランスレーションの設定を確認します。

次の表に、発信者 ID に基づくコールスクリーニングが機能しない場合のトラブルシューティング情報を示します。

表 2:発信者 ID に基づくコールスクリーニングの問題のトラブルシューティング

問題	ソリューション
コールが許可されない	<ul style="list-style-type: none"> • 発信者 ID を確認します。 • パターンをスクリーン CSS に追加します。
コールが許可される	パターンをスクリーン CSS から削除します。